

令和三年度

自己点検・評価書
(学校評価報告書)

附属天王寺小学校

1 附属天王寺小学校の現況

(1) 学校名

大阪教育大学附属天王寺小学校

(2) 所在地

大阪市阿倍野区松崎町1-2-45

(3) 学級数・収容定員

18学級(1学年3学級) 収容定員630人(1学級35人)

(4) 幼児・児童・生徒数

597人(男子319人・女子307人)

(5) 教職員数

校長(併任) 1人, 副校長 1人, 主幹教諭 1人, 指導教諭 1人, 教諭 23人(うち, 臨時的雇用4人), 非常勤講師 3人 事務職員1人, 臨時用務員(用務員) 1人, 臨時用務員(調理師) 7人, 教育後援会雇い事務職員1人, カウンセラー1人, 警備員2人

2 附属天王寺小学校の特徴

本校は、大阪教育大学の附属する小学校で、教育基本法及び学校教育法に基づいて義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを行う。

3 附属天王寺小学校の役割

- (1) 大阪教育大学と一体となって、教育の理論と実際に関する研究を行うこと。
- (2) 本学の教育実習機関として、実習生を随時受け入れ、適切な指導を行うこと。
- (3) 教育に関する理論を研究し、教育実践に役立てること。
- (4) 本学が行う現職教員研修に研修の場を提供すること。

4 附属天王寺小学校の学校教育目標

個が生きる学校

「自他の人格を尊重し、実践力のある子」「生命を尊重し、健康で安全につとめる子」「みんなと協力してしごとのできる子」「ものごとを最後までやりとおせる子」「きまりを守り、明るくさせる子」

5 附属天王寺小学校の学校教育計画

1 学び合う集団の形成と確かな学力の定着

学び合う集団の形成を目指し、各教科、道徳、特別活動等を通じて共に考える力、伝え合う力の定着を図る。

2 安心・安全な環境と豊かな人間関係づくりの推進

誰もが気持ちよく学ぶことができる環境を整え、また一人一人が自分本位に陥ることなく、相手の立場に立って考え、行動できる児童を育成する。

6 附属天王寺小学校の令和二年度 重点目標(評価項目), 具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

評価の基準

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

※【令和元年度→令和二年度→令和三年度】

昨年度と比較し, 5%以上向上は青, 5%以上減少は赤で表記する。

学校教育目標	個が生きる学校
学校教育計画	1 学び合う集団の形成と確かな学力の定着 学び合う集団の形成を目指し, 各教科, 道徳, 特別活動等を通じて考える力, 伝え合う力の定着を図る。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) 学び合う集団の形成 (学級経営)	① 学級の当番活動の内容、方法を学年や学級の実態に応じて工夫する。	<p>教員アンケート結果 (回答 22 人)</p> <p>◎学級の当番活動の内容、方法を学年や学級の実態に応じて工夫しましたか</p> <p>①よく工夫した 【30.4%→43.5%→31.8%】</p> <p>②工夫した 【65.2%→52.2%→59.1%】</p> <p>③あまり工夫しなかった【4.2%→4.3%→9.1%】</p> <p>④工夫しなかった 【0%→0%→0%】</p> <p>昨年度、学級当番の運営方法や児童への関わり、指導について研修を行った結果、教員の学級運営に対する問題意識は高まった。今年度は情報セキュリティ、いじめの研修を行い、これらの意識は高まったが、学級運営の意識は低下した。</p> <p>限られた時間の中で全ての研修を実施するのは困難だが、適切なバランスを考慮してすすめる必要がある。</p>	学級経営、情報セキュリティ、いじめ対応など、必要不可欠な研修を実施できるように研修計画を工夫する。	B	教員への研修計画に工夫を行うとのことであるが、来年度は、ポストコロナを見据えての研修、時勢に合わせた工夫が必要と思われる。	B	ポストコロナの状況を想定し、多様な研修の在り方を検討する。

<p>②各授業や、特別活動において、継続的に対話活動を取り入れる。</p>	<p>教員アンケート結果 (回答 22 人)</p> <p>◎各授業や特別活動において、対話活動を取り入れましたか</p> <p>①ほとんど取り入れた【52.2%→30.4%→38.1%】</p> <p>②概ね取り入れた【34.8%→47.8%→52.4%】</p> <p>③あまり取り入れなかった【13%→17.4%→9.5%】</p> <p>④取り入れなかった【0%→1%→0%】</p> <p>保護者アンケート結果 (回答 495 人)</p> <p>◎授業での対話活動等を通して、子ども同士が互いに学び合う雰囲気は感じられましたか</p> <p>①よく感じられた【54%→56.2%→71.3%】</p> <p>②感じられた【33.9%→36.2%→25.9%】</p> <p>③あまり感じられなかった【9.1%→6.8%→1.6%】</p> <p>④感じられなかった【3%→0.6%→1.2%】</p> <p>教員アンケートで「対話活動をほとんど取り入れた」「概ね取り入れた」を合わせて90.5%と、令和3年度は3年間の中で最高であった。昨年度、コロナ禍において、対話活動が抑制されたが、今年度、GIGA スクールの進展で、ICT を効果的に活用できるようになったことが関連すると考える。</p> <p>またそれは、保護者アンケートで「よく感じられた」「感じられた」を合わせて97.2%であったことから、授業での対話活動は、効率的、効果的に実施できていたと評価できる。</p>	<p>昨年度の課題は、対話活動を「あまり取り入れなかった」17.4%を減少させることであった。</p> <p>今年度は9.5%と大きく改善された。次年度も、研修研究授業の議題として設定する。</p>	<p>B</p>	<p>GIGA スクール構想により ICT を通じた対話は促進したことは事実と考えるが、その反動についても着目すべきである。</p> <p>対面授業の減少や集団行動の制限の結果、直接的な接触や長時間のかかわり合いが可能になった際に、人間関係や対話が苦痛に感じられ、それに反発する者も少ないのではと考えられる。</p> <p>.</p>	<p>B</p>	<p>今年度採用したトリオタイムのように、直接、対面しあうことを重視した活動や、協同学習の充実を次年度も図る。</p>
<p>③児童の学級の雰囲気の満足度を高める。</p> <p>B基準は、全国平均程度、A基準は全国平均より20%以上とする。(※</p>	<p>児童 QU アンケート結果 (回答 597 人)</p> <p>学級生活満足群</p> <p>1年生 65%→67%→75% (全国平均 42%)</p> <p>2年生 63%→63%→85% (全国平均 42%)</p>	<p>全学年、全国平均を20%上回った。</p> <p>(昨年度は5学年、一昨年度は3学年) 学級の雰囲気の</p>	<p>A</p>	<p>全国平均より良好であることで良しとしているが、3年生から5年生は前年と比較して5%以上減少してお</p>	<p>B</p>	<p>好事例については、その原因や影響を分析し、学校全体で周知することで、学級生活満足群の向上をめざす。</p>

	QUアンケートを活用)	<p>3年生 71%-75%-70% (全国平均 42%) 4年生 73%-81%-75% (全国平均 43%) 5年生 47%-78%-72% (全国平均 43%) 6年生 62%-57%-74% (全国平均 43%)</p> <p>どの学年も全国平均より数値が高かったことから、本校児童の学校生活への取り組みに対する意欲は非常に高く、雰囲気を持続、継続しようとする態度が身につけていると推測できる。</p>	<p>満足度を高めるためには、個性が認められ、活かされる場であることが必要である。</p> <p>次年度の研修、研究授業においても、研究授業の議題として設定する。</p>		<p>り、その理由についての考察が必要と考える。</p> <p>逆に、1年生と2年生の満足度が前年度や前々年度よりも高い理由についても考察をして、それを高学年にも適用できないかを検討することも有益である。</p>		
本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(2)確かな学力の定着	①学習課題や発問を工夫し、多様な意見が出るようにする。	<p>教員アンケート結果 (回答者 22 人)</p> <p>◎児童から多様な意見がでるように、学習課題や発問を工夫しましたか</p> <p>①よく工夫した 【47.8%-34.8%-31.8%】 ②工夫した 【47.8%-56.5%-68.2%】 ③あまり工夫しなかった 【4.3%-8.7%-0%】 ④工夫しなかった 【0%-0%-0%】</p> <p>教員アンケートで、学習課題や発問を「よく工夫した」「工夫した」を合わせて、100%であり高い水準を維持している。一方で、「よく工夫した」の割合は減少しており、コロナ対策、働き方改革などの影響により、教材研究にかける時間が減少していることに関係していると考ええる。</p>	<p>教員の問題意識をさらに高めるために、課題設定や発問の工夫について、課題を共有し、互いに相互評価できるようにする。</p>	B	<p>コロナ対策のため教材研究に時間をかけられなかった中で、「余り工夫しなかった」が0となったのは素晴らしい、各教官の意識の高さを高く評価して良い。</p>	A	<p>次年度も教員の問題意識を維持できるように、研修を工夫する。</p>
	②ノートやテストの返却の際、児童へのフィードバックを工夫する。	<p>教員アンケート結果 (回答者 22 人)</p> <p>◎ノートやテストの返却の際、助言や指導を行いましたか</p> <p>①よく助言や指導を行った 【26.1%-26.1%-28.6%】 ②助言や指導を行った</p>	<p>児童へのフィードバックの方法について、研修・研究会議において検討を行う。</p> <p>また次年度も、保</p>	B	<p>働き方改革に伴う教官の労働時間の管理の観点から、教材研究にかける全体的な時間の減少は既定路線にあると考えられる。</p> <p>個々の教官に依存するこ</p>	B	<p>平成30年度において取り組んだ、本校の業務改善の方針に基づき、業務の効率化を進めるとともに、教育内容の質の向上については、ノートだけでなく、他の手段についても</p>

		<p>【69.6%→60.6%→71.4%】 ③あまり助言や指導を行わなかった 【4.3%→13%→0%】 ④助言や指導を行わなかった 【0%→0%→0%】</p> <p>保護者アンケート結果 (回答 495 人)</p> <p>◎ノートやテストに対する教員からの助言や指導はわかりやすいものでしたか</p> <p>①大変わかりやすい 【36.2%→48.6%→56.6%】 ②わかりやすい 【46%→39.4%→34.3%】 ③あまりわかりやすいものでなかった 【13%→8.1%→7.1%】 ④あまり助言や指導がなされなかった 【4.8%→3.8%→2%】</p> <p>教員アンケートで、ノートやテストに対する助言や指導を「よく行った」「行った」を 95.7%→86.7%→100%、保護者アンケートで「大変わかりやすい」「わかりやすい」82.2%→88%→90.9%であった。昨年度 86.6%といったん落ち込んだが、今年度は 100%と増加した。研修の成果がでたと考える。また保護者からは一定して高い評価を得ることができており、今後も HP、CCT を活用し、教員による丁寧な説明を継続する。</p>	<p>護者の方にも伝わるような、ノートやテストの助言や指導のあり方についての教員研修の場を設定する。</p>	<p>となく、教材研究での制度的な改善/教官支援措置を検討することが急務と思われる。</p> <p>ます。その点での具体的な改善点はないのでしょうか。</p>		<p>検討を行う。</p>
	<p>③児童の学習意欲を高める。</p> <p>B基準は、全国平均程度、A基準は全国平均より1点以上とする。(※QUアンケートを活用)</p>	<p>児童QUアンケート結果 (回答 597 人)</p> <p>学習意欲 ※満点12点</p> <p>1年生 11.1点→11.1点→10.9点 (全国平均 10.0点)</p> <p>2年生 10.8点→10.7点→10.9点 (全国平均 10.0点)</p> <p>3年生 10.8点→10.9点→10.4点 (全国平均 10.0点)</p> <p>4年生 10.5点→10.6点→10.8点</p>	<p>学年が上がるごとに学習意欲が低下する原因を探り、具体的な取り組みを検討し、教員全体で共有化する。</p>	<p>B</p> <p>学年によって、全国平均との差に違いがある原因はなにか。その分析が必要である。</p>	<p>B</p>	<p>引き続き、QUアンケートの計画変化を評価し、その対策を安全対策委員会、生活指導部と連携し、検討する。</p>

		<p>(全国平均9.6点)</p> <p>5年生 9.9点→10.1点→10.6点</p> <p>(全国平均9.6点)</p> <p>6年生 9.9点→9.7点→9.8点(全国平均9.6点)</p> <p>全国平均より、1年生は0.9点、2年生は0.9点、3年生は0.4点、4年生は1.2点、5年生は1.0点、6年生は0.2点高かった。</p> <p>学習意欲は学級生活満足度と相関関係にある。学級成果湯満足度の高さが学習意欲に影響を及ぼしていると推測できる。一方で、学年が上がるにつれて、学習意欲が下がる傾向にあり、その対策の必要性が課題として明確になった。</p>				
--	--	--	--	--	--	--

学校教育目標	個が生きる学校
学校教育計画	2 安心・安全な環境と豊かな人間関係づくりの推進 誰もが気持ちよく学ぶことができる環境を整え、また一人一人が自分本位に陥ることなく、相手の立場に立って考え、行動できる児童を育成する。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1)安心・安全な環境 ※校内整備、環境整備を行い、教員が働きやすい、児童が学びやすい環境を整える。	①児童が学びやすいように、教室や特別教室の環境を継続的に整える。	<p>教員アンケート結果 (回答者 22名)</p> <p>◎教室や特別教室を児童が学びやすく整えることができましたか</p> <p>①よくできた 【39.1%→52.2%→33.3%】</p> <p>②できた 【60.9%→47.8%→66.7%】</p> <p>③あまりできなかった 【0%→0%→0%】</p> <p>④できなかった 【0%→0%→0%】</p> <p>保護者アンケート結果 (回答 495人)</p> <p>◎お子様の教室や特別教室は、児童が学びやすく整えられていると感じられましたか</p> <p>①よく感じられた 【56%→61.8%→70.7%】</p>	児童の学習環境の改善には何が必要で、何が効果的か、教員全体で検討し、その具体的な取り組みを、学校集会やCCTで強調して伝えるようにする。	B	今後も教員各位が学習環境の改善に努力することを期待する。	B	学びやすい環境は、多義的な概念であることをふまえ、次年度も継続的に検討し、実践していく。

		<p>②感じられた 【35.8%→33.5%→27.7%】</p> <p>③あまり感じられなかった 【6.6%→3.6%→1.2%】</p> <p>④感じられなかった 【1.6%→1.1%→0%】</p> <p>教員アンケートで、環境改善について「よくできた」「できた」をあわせて100%、保護者アンケートで「よく感じられた」「感じられた」を合わせて98.8%であった。</p> <p>昨年度より、学校教育改善に向けて、職員作業を継続的に行っており、教員の環境改善に対する問題意識はかなり高いと評価できる。</p> <p>保護者にも継続して90%をこえる評価を得られており、その効果も伝わっていると評価できる。</p>					
<p>②清掃指導に努め、校内を美しく保つことができる。</p>		<p>教員アンケート結果 (回答者 22 名)</p> <p>◎清掃指導に努め、校内を美しく保つことができましたか</p> <p>①よくできた 【39.1%→52.2%→33.3%】</p> <p>②できた 【52.2%→43.5%→66.7%】</p> <p>③あまりできなかった 【8.7%→4.3%→0%】</p> <p>④できなかった 【0%→0%→0%】</p> <p>保護者アンケート結果 (回答 495 人)</p> <p>◎保護者の皆様が学校に来られたときの印象をお選びください</p> <p>①掃除がゆきとどいている 【27.6%→56.3%→62%】</p> <p>②概ね掃除がゆきとどいている 【52.8%→40.3%→34.3%】</p> <p>③あまり掃除がゆきとどいていない 【16.4%→3.6%→2.2%】</p> <p>④掃除がゆきとどいていない 【3.2%→1.1%→0.8%】</p>	<p>今年度、コロナ禍によって、教員も保護者も思いを一つにして取り組むことができたのは大きな成果であると考える。</p> <p>課題は次年度も、継続できるかどうかということである。</p>	<p>B</p>	<p>保護者の学校活動への協力は有り難いことではあるが、清掃活動において児童の主体的取り組みの有無が、記載されている評価項目では明らかになっていません。</p>	<p>B</p>	<p>学校美化は児童にとって教育的意義が高い目標である。コロナ過の状況をふまえ、適切に実施していく。</p>

		<p>教員アンケートで、清掃指導について「よくできた」「できた」をあわせて91.3%→95.7%→100%、保護者アンケートで「ゆきとどいている」「概ねゆきとどいている」を合わせて80.4%→96.6%→96.3%であった。</p> <p>今年度も感染症対策のため、多くの保護者ボランティアのご協力があり、一年を通して清潔さを維持できたのが理由であると考え</p>					
(2) 豊かな人間関係づくり	①トリオタイム、委員会活動、クラブ活動での異学年交流を充実させることを通して、児童の友達関係を良好にできるようにする。	<p>児童QJアンケート結果 (回答597人)</p> <p>ソーシャルスキル (4年生以上)</p> <p>◎配慮</p> <p>4年生 30.4点→30.7点→30.6点 (全国平均27.8点)</p> <p>5年生 29.0点→30.3点→30.4点 (全国平均27.8点)</p> <p>6年生 29.7点→29.1点→30.0点 (全国平均27.8点)</p> <p>◎かかわり</p> <p>4年生 28.4点→28.3点→28.2点 (全国平均24.3点)</p> <p>5年生 26.1点→27.3点→28.8点 (全国平均24.3点)</p> <p>6年生 27.5点→26.6点→27.7点 (全国平均24.3点)</p> <p>今年度より、1年生から3年生までの異学年活動(トリオタイム)を設定し、委員会活動をクラス単位から異学年単位にするなど、子供たちの社会性を高める場設定の工夫を行った。</p> <p>児童のソーシャルスキルの観点として「配慮」「かかわり」があるが、その両観点とも、全国平均を上回っていた。</p>	異学年交流のよさを共有し、次年度も継続して取り組むようにする。	B	異学年活動による社会性を高める活動の成果が現れているとの評価は理解する。	B	令和3年度における異学年交流の成果を継承し、次年度においても更に向上できるように検討する。

	<p>②児童の友達関係の満足度を高める。</p> <p>B基準は、全国平均程度、A基準は全国平均より1点以上とする。(※QUアンケートを活用)</p>	<p>児童QUアンケート結果 (回答 597 人)</p> <p>友達関係 ※満点12点</p> <p>1年生 10.7点~11.0点~11.0点 (全国平均9.9点)</p> <p>2年生 10.8点~10.4点11.2点 (全国平均9.9点)</p> <p>3年生 10.8点~11.0点~10.9点 (全国平均9.9点)</p> <p>4年生 11.1点~11.1点~11.1点 (全国平均10.1点)</p> <p>5年生 10.2点~10.9点~11.4点 (全国平均10.1点)</p> <p>6年生 10.8点~10.5点~11.1点 (全国平均10.1点)</p> <p>友達関係について、全学年、全国平均を超えていることは高く評価できると考える。ソーシャルスキルの「配慮」「かかわり」を意識的に高め、より友達関係を良好にできるように努力することが重要であると考えます。</p>	<p>今年度と同様、児童の友達関係を良好に保つことの重要性を、教員で共通確認し、問題の発見、即時対応に努めるようにする。</p>	<p>B</p>	<p>コロナ下で交友関係を維持する場面や時間が通常よりも短かったにもかかわらず、前々年よりも高い数字になっている理由は何か？</p> <p>。</p>	<p>令和2年度から3年度にかけて、本校においては、保護者の理解と協力の下、コロナ禍においても対面的な活動を実施することができていた。その影響の反映ではないかと考える。</p> <p>一方で、表層的な関わりに終わらないことに注意も必要であり、教員間で問題意識を共有し、対策を検討する。</p>
--	---	---	--	----------	---	--